

第1章 中世から近世へ

I 戦国の動乱

❁ 1 戦国大名の登場

六角氏征伐(せいばつ) ① 1487年、將軍の足利義尚(あしかが)が近江(おうみ)で守護の六角高頼(かくかく)を討とうと出陣したこと。89年に義尚が陣中で死ぬと幕府軍は引き揚げた。

細川政元(はなせ) ⑤ 1466～1507 室町後期の武将。細川勝元(かつもと)の子。1493年、將軍の足利義植(あしかが)を廃して足利義澄(あしかが)を擁立し、幕府の実権を握った。

細川晴元(はなせ) ② 1514～63 戦国時代の武将。管領として幕府の実権を握るが、家臣の三好長慶(よしか)の台頭で没落。

足利義植(義材)(あしかが) ⑥ 1466～1523 室町幕府10代將軍(任1490～93, 1508～21)。義視(よし)の子。河内(かわち)で国に出陣中に細川政元に追われるが、後に復職。1521年に阿波(あま)で病死し、死去。

足利義澄(あしかが) ③ 1480～1511 室町幕府11代將軍(任1494～1508)。細川政元が足利義植を退け擁立。

足利義輝(あしかが) ⑨ 1536～65 室町幕府13代將軍(任1546～62)。畿内(きん)の実権を握った三好長慶(よしか)と対立。長慶死後、三好家中で台頭してきた松永久秀(まつひさひさ)に攻められて自殺した。

三好長慶(よしか) ⑩ 1522～64 戦国時代の武将。摂津(せっつ)守護などを務め、やがて細川晴元、將軍の足利義輝を圧倒し畿内を制覇するが、腹心の松永久秀の台頭で没落。

三好氏(よしか) ① 1510～77 戦国時代の武将。主人の三好長慶死後、1565年、將軍の足利義輝を殺し畿内に君臨。67年には東大寺大仏殿を焼く。織田信長(おだ)に降伏し、後に信長に背き自殺。松永氏(まつひさ) ④

戦国時代(せんごく) ② 応仁(おうにん)の乱開始から織田信長の入京(1568)・將軍追放(1573)までの約1世紀。1491年の北条早雲(きたじょう)の堀越公方(ほりごし)打倒や、93年の細川政元の將軍廃立を始期とする説もある。將軍や守護大名の権

威や支配が弱体化し、戦国大名や国一揆・一向一揆などの地域的権力が割拠・抗争した。経済発展や民衆の成長と反権力の動向などもこの時代の特徴である。

戦国大名(せんごく) ②6 →キーワード

領国(分国)(ぶんこく) ②0 中世後期、守護・戦国大名など地方権力の領有する支配領域。

大名領国制(だいめいりょうこくせい) ① 戦国大名の領国支配体制。検地と貫高制に基づく家臣団編成や農民支配、裁判権集中や分国法により領国の一元的支配の強化を目指したことなどが特色。

北条早雲(きたじょう) ②2 1432～1519 戦国時代の武将。後北条氏(ごきたじょう)の初代。出自不明で初め伊勢長氏(いせなが)に身を寄せ、1493年に伊豆(いず)で国に攻め入り堀越公方を滅ぼして葦山城(あしやま)を拠点とし、95年に小田原城を奪った。伊勢長氏(いせなが) ①

伊勢宗瑞(いせむね) ⑦ 葦山城(あしやま) ① 後北条氏(ごきたじょう) ⑨ 北条早雲を始祖とし、5代にわたり小田原城を本拠とした関東の戦国大名。検地・伝馬制度・楽市・職人統制などによって領国支配を行った。

北条氏綱(きたじょう) ⑩ 1487～1541 戦国時代の武将。早雲の子。武蔵(むさし)で国など関東へ領国を拡大し、検地を実施するなど支配体制を整備した。「北条」への改姓は氏綱の時代である。

北条氏康(きたじょう) ⑫ 1515～71 戦国時代の武将。氏綱の子。扇谷上杉氏(あふぎのうえすぎ)を滅ぼし、山内上杉氏(やまうちの上すぎ)に追い、上杉謙信(かみかみ)と戦うなど関東の支配をほぼ完成させた。武田・今川氏とは同盟を結んだ。

古河公方(ふるかわ) ⑬ 下総(しもうた)で国古河を拠点とした鎌倉公方(かまくら)の足利成氏(なりなり)の後継者。1454年、関東管領の上杉憲忠(のりただ)を殺し幕府の追討を受けた成氏が古河に逃れたことに始まる。政氏(まさ)・高基(たか)・晴氏(はる)・義氏(よし)と続く。

足利政氏(あしかが) ① 足利高基(たか) ① 足利晴氏(あしかが) ① 足利義氏(よし) ①

足利成氏(なりなり) ① 1434～97 戦国時代の武将。持氏(もち)の子で古河公方。堀越公方と対立。

堀越公方(ほりごし) ⑭ 上杉氏が古河公方の足利成氏に対抗するため、新たな鎌倉公方と

戦国大名

下剋上の風潮を反映して、応仁の乱後の戦国騒乱の中で、実力によっていくつかの郡や国を支配した大名。その支配領域を分国(領国)という。守護出身の大名(武田・今川・大友・島津など)の割合は少なく、それ以外の守護代(上杉・尼子など)や国人(伊達・織田・毛利・長宗我部など)出身の大名の割合が高い。国人などの他、村落に台頭してきた地侍を家臣に編成して軍事を強化した。検地を行って、家臣の所領を貫高で統一的に把握して軍役をかけるとともに、年貢を増徴して農民支配を強化した。分国法を定め、裁判権を掌握して法による支配を進めた。こうした支配体制を大名領国制という。

して迎えた足利政知とその後継者。鎌倉に入れず、伊豆国堀越に御所を構えた。政知の子の茶々丸の時、北条早雲に滅ぼされた。

足利政知(あしかが) ⑩ 足利茶々丸(あしかが) ② 山内上杉家(やまうちの上すぎ) ① 関東管領(かんとう)の上杉氏の一族で鎌倉山内に居を構えた。扇谷上杉氏との抗争に勝利するが、1546年、憲政(のり)は北条氏に敗れ越後国長尾(ながお)氏の元に逃れた。

扇谷上杉家(あふぎのうえすぎ) ① 関東管領の上杉氏の一族で鎌倉扇谷に居を構えた。山内上杉氏と対立し、その間に関東に勢力を伸ばした北条氏に1546年に滅ぼされた。

今川氏(けい) ②0 足利氏支流で、室町時代には駿河国守護を務めた。戦国時代、氏親・義元の時、領国支配を拡大したが、義元が桶狭間(うすはな)の戦いで敗死して以後衰えた。

今川義元(けい) ②3 1519～60 戦国時代の武将。氏親(のり)の子。駿河(しづ)・遠江(えん)・三河(みかわ)の3か国を支配、1560年には上洛をねらうが、桶狭間の戦いで織田信長の奇襲にあって敗死。

武田氏(たけだ) ⑤ 清和源氏で鎌倉～室町時代の甲斐(かい)守護。信玄(のぶ)の時代に戦国大名として中部一帯に勢力を拡大したが、子の勝頼(のり)の時代に織田信長に敗れ、1582年に滅亡した。

武田信玄(晴信)(たけだ) ②2 1521～73 甲斐国の戦国大名。信濃(しなの)・駿河(しづ)両国などに領国を拡大し、上洛を目指す、途中で病死。分国法制定・治水・鉱山開発などにも手腕を発揮。

島津氏(しまづ) ②0 鎌倉～江戸時代、南九州を領有した大名。鎌倉～室町時代に薩摩(さつ)国などの守護を務め、戦国時代には戦国大名に。江戸時代も外様の大藩として存続した。島津貴久(しまづ) ③ 1514～71 南九州の戦国

大名。一族の内紛に勝利し、薩摩・大隅(さつ)・日向(ひゅう)3か国の守護となり、領国経営に務めた。ザビエルの鹿児島上陸時の島津家当主。

島津義久(しまづ) ⑧ 1523～1611 貴久の長男。九州統一を図り大友(おおとも)氏・竜造寺(りゅうぞう)氏と戦うが、1587年、豊田秀吉(とよだ)に降伏。

上杉謙信(長尾景虎)(かみかみ) ②2 1530～78 越後の戦国大名。初名は長尾景虎。北条氏に敗れ越後に逃れた関東管領の上杉憲政から管領職を引き継ぎ、信濃・関東へしばしば出陣し武田・北条氏と関東の支配権を巡って争った。

長尾氏(ながお) ④ 上杉憲政(かみかみ) ① 川中島の戦い(かわなかじま) ④ 1553～64年、北信濃を巡り武田信玄と上杉謙信が、5回にわたり、信濃国川中島で争った合戦。勝敗は決しなかった。

大内氏(おおい) ⑧ 南北朝～戦国時代、中国地方西部を支配した守護・戦国大名。幕府の九州計略上の重きをなし、山口を拠点に対明貿易を行うなど中国地方随一の勢力を誇った。

大内義隆(おおい) ⑧ 1507～51 中国・九州北部7か国の守護職を握った戦国大名。城下町山口に京都の文化を移植、ザビエルの布教を保護。1551年、陶晴賢(はな)の謀反で自殺。

毛利元就(もうり) ⑧ 1497～1571 中国地方の戦国大名。山口の大内氏や出雲(いづも)の尼子(のこ)氏を倒すなどして、安芸(あき)国の国人であった毛利氏を中国地方随一の戦国大名に成長させた。

毛利氏(もうり) ⑩ 小早川氏(こばやかわ) ② 鎌倉～戦国時代の安芸国の豪族。毛利元就の三男の隆景(たか)が養子として入り、毛利氏の家臣となる。陶氏(はな) ③ 室町～戦国時代の周防(すおう)の豪族。代々、大内氏の重臣で周防守護代。